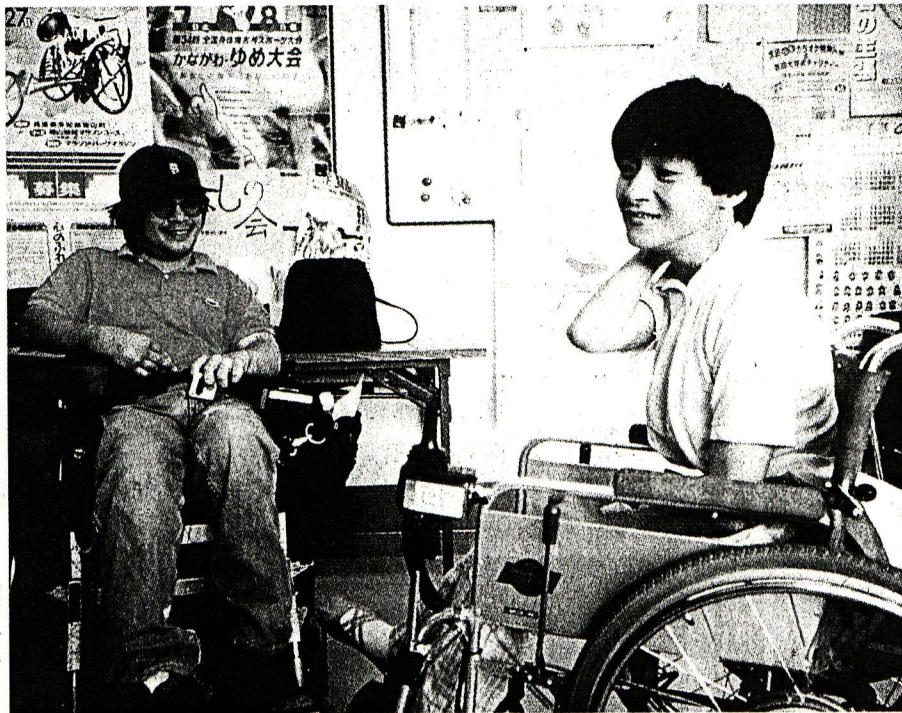


記録映画「障害者イズム」

「自立」の実情伝える

23日一の宮町で上映会

障害者が入所施設などを出て、地域の中で自分の望む暮らしを実現しようという動きが広がっている。その実情を伝える記録映画「障害者イズム」が各地に上映活動の輪を広げ、「自立」の意味を問い掛けている。県内では二十三日午後一時から、阿蘇郡一の宮町の町交流促進センターで上映会がある。



障害者支援事業に自ら取り組む日原一郎さん(左)と、念願の一人暮らしを実現した中込恵美さん(映画「障害者イズム」より)

脳性まひによる重度の身体障害のある甲府市の三人が、施設や親元を離れ自立を目指す六年間を追ったドキュメンタリー。自立の足どりは三者三様だ。

文筆活動などの自由な時間を持つために、制約の多い施設を出ようと試みる小池公勇さん。自ら障害者のためのヘルパー養成事業を始めた日原一郎さん。そして中込恵美さんは、長年ワークホーム(障害者の作業所)で

暮らし、働いてきたが、その職場へ通勤する形で一人暮らしを目指す。生活保護費の申請や県営住宅への入居希望が役所で拒否されたり、肉親の反対、介助者探しの苦労など、自立への歩みに費やされる膨大なエネルギーが浮かび上がる。三人の日常を静かに見守る俳優・吉岡秀隆さんの

ナレーションも印象的だ。この映画の山田和也監督は「施設に閉じ込められて人生を生ききったと見えるのか。また、これだけ進んだハイテク社会は障害者に適した職業も用意すべきなのに、現実には社会参加の道を閉ざしている」。三人のその後を追う続編も準備中だ。



記録映画「障害者イズム」の上映会を開く小規模作業所「夢屋」代表の宮本誠一さん(阿蘇郡一の宮町)

県内初の上映会を開くのは、同町の小規模作業所「夢屋」代表、宮本誠一さん(左)。ダイジェスト版を見て「三人の表情が、自立を目指すうちにずいぶん変わったのが印象的」という。

「多くの障害者は視野をふさがれ、自分の人生に疑問を持たず生きている。うちの利用者も全員が自分の意思で通い始めたわけではないが、ここに通い地域で暮らすことで、自由を望む気持ちと呼び覚まされた。この映画を通して障害者にも多様な人生があるということを知ってほしい」

※上映会のチケットは1000円。問い合わせは夢屋 ☎0967(22)3372。「障害者イズム」の貸し出しの問い合わせはドキュメンタリージャパン ☎03(5570)3551。